

保育かながわ

発行所
横浜市神奈川区沢渡
4の2
神奈川県保育会
発行人
鈴木 萬 吏
題字
故 内山岩太郎 筆

神奈川県保育

— 児童福祉法施行四十周年に寄せて —

於 神奈川県社会福祉会館 神奈川県福祉部長 手塚 修 平

育園長)が「子どものための都市における保育条件のあり方」というテーマで多様化する保育ニーズへの対応などについて発表され、石川美保氏(指ヶ谷保育園長)の適切な助言もあって活発な討議が

昭和二十二年十二月に、子どもが一個の人間として尊重され、心身ともに健やかに育てられることを保障し、国・地方公共団体・国民の責任を明示した児童福祉法が制定されて、四十周年を迎えました。

この法律により、保育所は、保護者の委託を受けて保育に欠ける子どもを保育する機能をもつ施設として位置づけられ、施設や運営の最低基準も設けられるにいたり、次代を担う子どもの健全育成の基盤が確立したのであります。

この後、児童福祉法は、幾度の改正により、措置費国庫負担制度、

入所措置基準、徴収基準、保育単価制度等を導入し、現行の保育体制がほぼ確立されました。

その間、県内保育所の定員は、昭和二十四年の九、〇三五人(保育所数九十九か所)から、昭和六十二年の六三、五六八人(保育所数六七九か所)へと、児童数、施設数共に七倍の増加となりました。

また本県は、国の推進事業に乗せする形で単独の助成方策をすすめてまいりましたが、とりわけ保育所整備に力を入れ、昭和五十年の年間三八か所をピークに、前後十年間に一八二か所が新設されました。特に、昭和四十八年には、民間施設整備借入金返済充当指定民調費補助制度を実施するなど、民間の保育事業の振興のための諸施策を展開いたしました。

国は、昭和六十一年国庫負担補

助率の引下げとともに、保育所入所措置事務と保育料徴収事務を地方公共団体の団体事務とし、保育所の最低基準を「簡素・合理化」する改正を行い、保育行政が住民に身近かな市町村行政としてその色を一段と強めたと言えます。

県といたしましては、市町村の保育事業の促進を図ることはもとより、県民の多様な保育ニーズに対応した先駆的事业へ積極的に取り組んでいるところであります。

具体的には、第二次新神奈川計画に位置付けられた昭和六十二年度からの新規事業でもある「地域育児センター」を中心とする地域児童養育システムを整備することです。

二十一世紀に活躍する子ども達の保育水準を高め、同時に地域児童の諸問題の解決に、今後、保育所が果たす役割は益々大きくなることと思えます。今年も皆様と一体となって保育事業の充実と発展のために全力を傾けてまいります。



神奈川県保育会々長 鈴木萬吏

昨今の話題をひろって

昨今の話題をひろってみると、

昨年の保育の日に出版された『保育の社会史』がある。これは神奈川県新聞社元編集局長霜山富士夫氏の筆によるもので、白峰学園保育センターの保育史専門部会で進めていた神奈川の保育史を委員の分担執筆を改め霜山氏による単著をお願いしたものである。県域という限られた地域のみでなく全国的視野で記述が為されている。各保育所には各一部宛呈送されているのでご多忙の暇をぬってご一読願いたいといろいろとご高評ご指導をおよせ願えれば幸甚である。が今年の保育の日には資料編を刊行すべく準備をすすめているので、先生方の御手元にある種々な資料をご提供いただきたいもので、こ

んなものと思っておられ、これが資料だなどとは考えてもおられなかったものが実は貴重な資料だという場合も往々あるのでは是非共この際資料発掘をしていただき公開していくことが大切と思いついて願ひ申しあげる次第、乞御協力！さて次に県民間保育園協会を進めている、野外活動センターの建設も行われる予定。(昭和63年12月2日(金))

5 昭和63年度全国共通研究テーマ

全国保育協議会が提唱している昭和63年度の全国共通研究テーマは「明日をひらく保育を考える」で一連の制度の改革が進行の直接運営する大会とし、関東ブロック一都十県二政令市が支援協力して例年より遅いが十一月二十

九日、三十日、十二月一日の三日間、東京青山の子どもの城を主会場として開催される。総会場にあたる青山劇場の関係で例年の半分千二百名の参加者の大会となるが

と思うが各自の園でもそれなりの方針をたてられて日々の保育にあたっておられるわけでこれらの実践が生かされ又生きる指針を期待している。

研究大会の名に恥じないように第二日目の分科会を重視して一分科会又は分散会あたり数十名程度として実施する予定である。従って助言者も各一名とし原則的には保育組織の増員等は避けて所謂学識

保育に関する国レベルの情報は極力入手に努め、可能な限り早急に県保育会委員の先生方にお届けしていくので、大いに活用いただきたいと思う。

経験者をもってあてる。当県の先生方の御協力を今から要請申しあげる。愚生は大会事務局長という役割なので格別の御助力を！

来年は関プロ大会の当番県となるので益々連絡を密にして協力しあってお互の連帯感を更に培って厳しい時代に対処しなければならぬと考えるものである。保育所で保育されている子ども達にとつ

ては公立も民間もない。子どもの視点に立つて、保護者の立場を理解してこそ真の保育といえよう。

ては公立も民間もない。子どもの視点に立つて、保護者の立場を理解してこそ真の保育といえよう。

「明日をひらく保育を考える」 第21回神奈川県保育事業大会

於 神奈川県社会福祉会館

あいにくの五月の嵐の中を、多くの関係者が集い年一回の第21回神奈川県保育事業大会が、盛大に開催された。

式典では、保育事業永年勤続者104名に保育会長の表彰が行われ、そのあと、ご来賓の方々から、保育事業への期待をこめたご祝辞をいただき改めて関係者が保育事業の使命の重さを感じさせられた。昼食の合い間に保育会、保母会ともそれぞれ総会を開催し、前年度の事業報告と決算。今年度の事業計画案と予算案の審議を行った。その結果、全員賛成で可決され、今年度の事業が正式に実施の運びとなった。

午后から園長部会、保母部会に別れ、それぞれ当面する課題についての研究討議を行った。園長部会では、生野隆彦氏（三崎二葉保

育園長）が「子どものための都市における保育条件のあり方」というテーマで多様化する保育ニーズへの対応などについて発表され、石川美保氏（指ヶ谷保育園長）の適切な助言もあって活発な討議が行われた。又、保母部会では、助

言者に七田哲美氏（横浜女子短大教授）をお願いして「子どもにとってのあそびの役割を考える」というテーマで二つの、あそびの心身の発育に果す役割についての発表があった。

各部会終了後、全体会議が行われそこで各部会での研究討議の状況報告と助言者の助言並びに感想などが述べられて閉会となった。

大会は、保育事業を取り巻く環境の変化、今日的課題への対応などさまざまな問題を浮きぼりにし、大変意義のあるものであった。

大安の十二月四日（土）第十回保母の日前夜祭が昨年と同じ東急ホテルで盛大に開催されました。会場は若い熱気で明るく華やいだ雰囲気につつまれました。

主催者鈴木会長の挨拶にはじまり本年度保母賞受賞者紹介、叙勲を受けられた方、厚生大臣被表彰者への花束贈呈が行なわれました。

前夜祭にはお忙しいなかご出席の安達正平県福祉部次長、三谷光雄児童福祉審議会委員長さん方に祝辞をいただき、この他来賓の方方も多数お迎えでき、会は次第に盛りあがっていきま

保母の日前夜祭

過せる幸に酔い、時間のたつのも忘れなごやかなうちにすすみ、若い人々の心を通じ、このように集い、日頃あまり聞くことの少ない

ピアノ演奏に独唱等心の窓を開きやすらぎを求め英気を養う場となった事は大変有意義で明日への活力となることでしょう。

帰りの仲間同志の会話にプロの方の音楽会もよいが日頃親しい仲間の特技の持ち味を生かした会もおつではないかと云う声も聞かれました。久しぶりに逢う友と肩を並べておしゃべりも出来参加してよかったです。

今年は県保母会の役員によるピアノ演奏や独唱、又はコーラスの美しいハーモニーの中で参加者一同も昼間のにぎやかな保育園境から一変ししっとり落ち着いた音楽会として大人のムードでした。師走の夜のひとときをこうして



子どもたちの 豊かな未来のために

県 央 地 区

晩秋の冷たい雨がそぼ降る十一月二十八日(土)、寒川町民センターに於いて、第十八回保育事業大会が盛大に挙行され、その中で三園が保育発表を行った。

八七〇名収容の会場は、厚木、伊勢原、秦野、海老名、座間、愛川の各市町等の保育関係者及び施設長、地元の有志、保護者等でほぼ埋まる程盛況、且つ、好評裡に終った、研究発表会の内容は各園年長児によるリズム表現、三園合同合奏。更に三園職員によるアドリブ劇、パネルシアター、腹話術等々、さむかわ保育園児は、手具を使って新体操、スイキング、リボンの曲で、黄色のコスチュームの妖精のような園児がよくリズムに乗って表現し拍手を浴びた。



旭保育園はメイポールダンスを発表、二十四本のリボンを軽やかなポルカの曲で交差させ乍ら、見事に編む様は優雅で深い感銘を与えた。一之宮愛児園は、まか不思議アドベンチャーの軽快な曲で体型変化やドミノは、リズム反応のよさを如実に見せ大好評だった。次の三園園児による大合奏、おまつりは、リハールなしにも関わらずピタリと息があい、日頃の保育の成果を遺憾なく発揮し、参会者の絶賛を受けた。次代を担う子供達の豊かな未来の為に益々、意欲を持って、保育に邁進する意志を固め合った有意義な研究発表会及び大会であった。

笑顔いっぱい、友だちいっぱい。

「相模原市保育まつり」

十一月七日八日、相模原市のあじさい会館で催物が盛りだくさん。人いっぱい。夢いっぱい。の保育まつりが行われました。集った人々からこの地区の暖さが感じられました。

ムンムンとほとばしっていました。更に給食コーナーでは手作りおやつに人気が集り、あつという間に試食品は品切れの状態。(食べものは早い。)熱心に作り方を質問していました。中でも「ゴマ揚げだんご」と「卵の五目蒸し」が大好評で人気がありました。

◎絵画コーナー。各保育園の整然とした作品の数々、アイデアの良さ、一つひとつ見せていただき、日頃の子どもの生き生きとした姿が想像されました。手作りコーナーにも人気が集り、人と人とのふれ合いを大切にすることが多くあって好ましい雰囲気でした。

又、人形劇及びオペレッタ、エプロンシアター等、盛りだくさんの出し物があり、家族連れで賑やかに人のいぶきが伝わってきました。

◎又社会的にも今一番必要な相談コーナー等も入りやすくセットさられていました。人の姿は少いようでしたが、行き届いた感じを受けました。赤ちゃんコーナーから若者の楽しめるコンサート、元氣のよい子ども達の声、若い方のコーラス、会場が一つになって熱気が

先生方の日頃の熱意と研究の成果の現われだと思われました。

ム。更に三園職員によるアドリブ劇、パネルシアター、腹話術等々、さむかわ保育園児は、手具を使って新体操、スイキング、リボンの曲で、黄色のコスチュームの妖精のような園児がよくリズムに乗って表現し拍手を浴びた。

ムンムンとほとばしっていました。更に給食コーナーでは手作りおやつに人気が集り、あつという間に試食品は品切れの状態。(食べものは早い。)熱心に作り方を質問していました。中でも「ゴマ揚げだんご」と「卵の五目蒸し」が大好評で人気がありました。

又、人形劇及びオペレッタ、エプロンシアター等、盛りだくさんの出し物があり、家族連れで賑やかに人のいぶきが伝わってきました。

先生方の日頃の熱意と研究の成果の現われだと思われました。



保育所の育児相談事例

平塚保育園長 猪股 祥

保育所らしい育児相談、保育所ならではの育児相談、とはどのようなものなのでしょう。ここ数年間、そのことばかり考えながら家庭保育相談事業としての相談に当たってきました。次に、数少ない経験の中からですが、保育所らしさが生かされたと思われる事例をご報告したいと思います。

主訴「ことばがおそい、おしめがとれない」。三才一ヶ月、女児。

電話相談：母「満三才になったのですが、ことばがはっきりしないで、まだ、おしめをしているんですけど、心配ないでしょうか?」園長「ことばがはっきりしないって、どんな感じですか」母「何か伝えようとして、一生懸命話しかけてくるんですが、レロ／＼した感じで、でも何を云いたいか感じてわかるから不自由はしていない

支える為に、又、Aちゃんの現状を知り、方針をたてる為に、「もう少しし、お母さんのお話をうかがいたいですね、Aちゃんにもお会いしたいし、一度保育園にいらっしやいませんか」「お姉ちゃんと保育園で遊んでもいいし」と誘った。母親は、二つ返事で「是非行きたい。」と面接日を予約する。

面接：一週間後、母子三人で予約時間の三〇分前に来所、園長が玄関に迎えに出て「来客中(事実)なので、予約時間まで保育室で遊んでみませんか」と誘いかけるとすぐに同意、保育室に案内してAちゃんと同年令の担任に紹介する。母親は暗い表情で無気力な感じ、服装もグレーと黒でルーズな型の

もの、居合わせた職員に「何だかゆうれいみたい。」と表現させた程。

園長が定刻に迎えに行くと、Aちゃんは室内のスベリ台を逆から登ったりして、初めての場にも抵抗なく自分なりに活動している様子であった。母親は同年令の他児

に関心を向けていたようで、「発達の早い子、おそい子いろいろな子が居ますね。」と話しかけて来たり、大分くつろいだ様子になった。面接室(応接室)では、Aちゃんと姉は床の上の玩具で遊び、母親と園長は側の椅子にかけて、子ども達を眺めながら話をする。話題は、電話で得た情報を更に詳しく、感情をこめて話し、いろ／＼な思いを抱きながら不安な日々を過している様子を訴えた。また、現在の生活はサラリーマンの父親と四大家族、近隣には親族が多く、常に周囲の目を気にして孤立した状



態であること等が語られた。園長の「何か楽しいことは？」の質問に、急にニコッと明るい笑顔を見せて、恥づかしそうに「夜、子どもを寝かせてから、主人と二人でお酒を飲むくらい。」と。そしてすぐに暗い表情になってしまった。しかし、この一瞬に見せた母親の健康そうなるさは、見通しの明るさを感ぜさせ、ほっとする一瞬であった。

こうして大人が話合っている間にも、Aちゃんは時折り遊びをやめて、母親の膝の上に頭を乗せて甘えたり、母親と目を合わせて何か語りかけたり、母親もごく自然に子どもを受け入れ、やさしく対応していた。大分リラックスしてきたこの頃に、園長は先程から気になっていたAちゃんの行動について、ブロックや豆自動車をつまみ上げる時のぎこちない指の動き、三階の面接室に来た時の階段の昇り方のぎこちなさ、後頭部のかなりはつきりした扁平、時々目が内側に寄ること等を母親と共に確認

しあう形で伝え、そうした事が気になるので専門医の診断を受け脳波検査等もして器質的な異常の有無を確認してはと提案した。母親も、日頃の遊びの例をあげて心配になっていたことを語り、是非、受診の予約をしたいと申し出た。しかし、「お父さんと相談してから電話を下さい、いつでも予約できるよに医院には連絡しておきますから」と返事をし、両親が共に納得して、主体的に行動されることを期待した。受診の予約電話は、それから二ヶ月後にかかった。脳波では発作異常波と未熟波が確認され、医師に服薬をす、められしたが、父親の反対を押し切つて母親が決断した受診であったため、その後服薬は中断している。更に二ヶ月後に、母親より園に「Aちゃんの為に私の為にも、保育園に入園した方が良いと思うので、近くの保育園に入ることにしました。どうもありがとうございます」と明るい声で電話があった。

面接した時の別れ際に、気が向いた時に母子で保育園に遊びに行くのもいいですね、と一言添えた事が良かったのであろうか。しかし、実際に入園したのは更に四ヶ月後のことである。現在は、Aちゃんも保育園に慣れ、暖かく迎えてくれる保育者のお陰で母親も徐々に明るさを取りもどしている。

この事例は、親が保育所入所という結論を出すのに九ヶ月を要しました。時間はかかりましたが、細々とでも糸がながっていた事は、相談を受けた者にとってうれしい事でした。本当の問題はこれからだと思えます。親は保育園生活の中から、発達障害の現実を認めざるを得なくなるでしょう、そうした時に保育者がどうかかわるか期待される所です。また、Aちゃんは保育園で同年令の友達と楽しく遊ぶことによって、協同運動や微細運動等の運動機能が発達促進され、また、精神的にも多くの刺激を受けて、よりよき発達がなさ

れることと思えます。Aちゃんが保育所に入園して本当によかったと思います。

保育所の育児相談に求められるものは、親の訴える表面的なことばにとらわれず、親のつらい気持ち、不安な感情を共に感じ、親の立場になりながら、問題の本質をとらえる為に、多角的に情報を整理し、必要に応じ専門機関と連携しながら、親が主体的に問題を解決する方向に動き出せるよう、暖かく支えることではないかと思っております。専門相談機関のように、親自身の問題、家族間の問題等に深く踏み込むことには疑問を感じています。しかし実際には、専門機関への紹介、連携など、思ったほど容易ではなく、今後の課題は多く残されていると思えます。以上

この事例は、保育所入所しました。保育所入所することが保育所らしい育児相談という意味ではありません。その点ご了解ください。

「ふれあいサタデー」 実践の意味するもの

逗子市 沼間愛児園長 半沢 日出夫

「ふれあい」という言葉が、福祉の代名詞の様に使われる昨今、些か便乗的な印象を持たれるかも知れないが、沼間愛児園における「ふれあいサタデー」はすでに十年前から、年に一度実施していた。

「ふれあいの広場」の意図するところを、毎週土曜日に拡大し、更に、夏期の「ふれあいサマー」を実施するに至った一連の地域交流事業の呼び名である。

地域交流事業は、地域育児センター事業の一部であり、祝、休日等の臨時保育や、電話相談、子連れ勉強会等の母親育児指導と併行して活動を始めた事業である。

児童福祉法制定四十年を迎え、保育所の周辺は様々な論議が交わされ、地域における保育所の役割りや在り方が真剣に研究されているように聞き及ぶが、沼間愛児園

で実施している「ふれあいサタデー」を始めとする取組みは、昔から保育所の範中で当然行なわれていた實際を、ただありのまゝ、地域に向って晒け出しただけのことである。

我が身を陽光に晒すには勇気がいる。衣服を脱いだ裸身は、果して美しかったであろうか？ 職員はなかつたが、敢て開始に踏み及んだのは、私自身が保育所の在り方に疑問を持ち始め、その気持が膨んでいたからであった。

子どもを預けて働くのに足りる対応はどうか？ 休日に働く女性はどうしているのだろうか？ 兄弟姉妹のない子は頭でっかちにならないだろうか？ そんな単純な疑問と共に、戦後の混乱期に身を投じた成人施設での労苦から、二

十余年前に自分で選んで転換した保育所という楽しい職場に住み馴れて、以来真の福祉に目を反けてはいなかつたらうかという蓄積された気持が底辺にあった。

それが自らの裸身を点検する切っ掛けを作ったのである。

結果的には、神奈川県で示された地域育児センター構想に即応した形で乳幼児健全育成事業として発足し、周到な準備を経て六十二年五月から実際の業務を開始した。

本園の所在する地域性から考察するならば乳幼児数も少なく、それに対応する保育所や幼稚園が充足されているうえ、保健婦を中心とするケアーや家庭児童相談室の窓口もあり、ひとり整った体制のなかで、保育所が地域のために何が出来るか？ その結論は、保育所の子も達と街の子も達と一緒に遊ぶ場をつくること、みんなで同じ給食を食べ、歌い踊る場をつくること、これしかないという事になった。

それが「ふれあいサタデー」なのである。

この園の呼びかけにすぐ反応があり公園で遊んでいた親子が次第に集って来るようになり、在園児と共に輪になって体操をしたり、自由遊びに参加し、仲間になって砂山をつくり、喧嘩の中で給食を食べ、後片けを手伝い、紙芝居を見たりするのである。

集ってくる親子は気の向くままの参加で、二週続けて来たかと思ふと来なくなり、又暫らくしてひよっこりやって来たりするが、始めてから十数組の親子の参加が続いている。

参加する方は気儘でも、受け入れる方はなかなか、そうはいかない。企画、準備の時期の大半は、保育計画、指導計画の見直し、よこわり保育とたてわり保育の併用と職員研修の連続であった。

赤ちゃんを抱いた母親や妊産婦が参加する乳児担当の職員は、市の保健婦を迎えて、一年前から週

に一回「こんなとき どうしましよ。」というテーマで懇談会を続けた。

幼児担当の保母は、従来の年令別保育の形態を掘り下げて討議し、たてわり保育を実施するための保育計画や指導計画を真剣に検討した。

これは地域の子ども達と交流する上で先ず大切な、「誰にでも親切に接する。」という基本的な姿勢を原点に返って、もう一度考えてみる必要があったからである。

保母はもとよりリーダーや主任も、保育のことしか知らないでは済まなくなるわけで、何よりもまず、現在の保育所の置かれている立場を、周囲の社会的諸条件の変化と福祉本来の役割の重要性を見極めなければならぬことを認識することなのである。

全体会議を開き、厚生省の通知を知り、どんな指針なのか？ 何故保育所で育児相談を受けるのか？ これからの保育所の在り方と

課題は何なのか？ 更に具体的に、我々の出来る育児相談とはどんな形にしていくなのか、

新規事業の必要性と転換期にある保育所の実態を認識するところから始めたのであった。

勿論この仕事は、広く市民のためのもので、市の広報にも掲載され、地域連携の輪を密にするため市社協の協力を得て、民生児童委員の手を煩わし、意識調査のアンケートも回収した。又市内保育園



長会でも、保育所の実態と立場を確認し、今後の地域福祉について意見交換も行った。

「ふれあいサタデー」を通じ、多くの親子と知り合い、保母一人一人が、地域の母親と交流した。

母親の手を握っていた子ども達も、少しづつ、離れて、在園児の隣りで一緒にあそぶようになった。

地域交流とか母親指導とかいう看板よりも、親子が集って来てくれることが、何よりも嬉しい。

秋口になって、常連の親子の姿が、おつとり見えなくなったことが目立つようになったが、幼稚園が入園募集の時期であるから…こんなこともあろうと思う。「ふれあいサタデー」で育った集団参加

の喜びが、幼稚園で楽しい生活を過す芽となれば、素晴らしい生活になれば新しい顔が増えるだろうそれを繰返しながら、地域の中に根ざしていくのだと思う。

「ふれあいサタデー」の、相談事業としての成果も未だ確実では

ないが、子連れ勉強会を通じて感じることは、徐々にではあるがふれあい職員一人一人が相談員として成長している様である。何よりも、我々の新しい保育計画が、実りのあるものになるかが問題である。

「幼いものへのいたわりや優しさを養い誰とでも仲よく出来る子ども集団をつくっていく。」と掲げることが易いが、子ども達の本当の自主的行動を育て、本当の優しさを育てることは、難しい。

地域の中で根をはるためには、どこから見ても納得の出来る子育てが、出来るか否かということだと思ふ。

未だ細い根を晒しながら、沼間愛児園は今一生懸命である。

在園児はもとより、時代を背負うすべての子ども達の健全な成長を願いながら「ふれあいサタデー」を実践する本当の意味は、この真剣な取り組みの姿にあるのではないかと思ふ。

園長研修

日時 二月十二日(金)

場所 こどもの城(東京)

内容 国際交流保育への参加

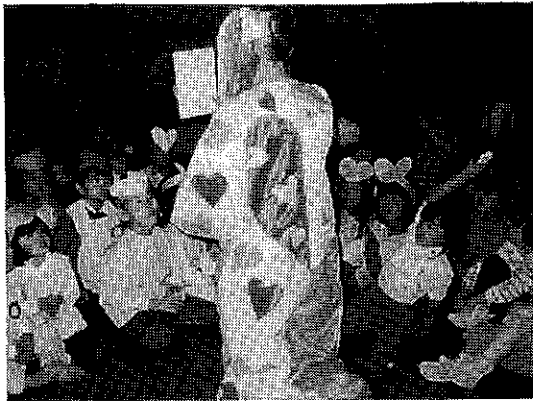
「国際化の中の保育」

暖冬の靴ききった東京に恵みの雪が降りしきる中、五十数名の熱心な先生方が、こどもの城に集まりました。

研 修 報 告

テリー・スーザン(こどもの城国際交流部長)先生を中心に、インターナショナル・スクールの子供達と、こどもの城の幼児グループとが、「ハッピーバレнтаイン」の、歌・ゲーム・ジャズダンス・プレゼント交換と盛り沢山の交流をもち、そこに私達も楽しく参加させていただきました。

赤、白、ピンクのピエロ姿で、大きな体を縮め、子供を一人一人迎えられる先生の姿勢に、「先生



は子供と同じ気持ちにならなければ」という手本を見、また、子供同士言葉は通じなくても心は通じているんだと実感もしました。施設見学に続き、全社協山田美和子先生の司会で、国際化の中の保育についての話し合いが活発になされました。その中で「女の子の靴は青ではいけないの？目的が同じならそんなことはないはず。幅広く頭を持つこと。国際化はそんなことだと思います。」とのテリー先生の言葉が印象的でした。

主任保母研修

十一月十七・十八日紅葉のすばらしい暮秋の湯河原・ちとせ荘に

おいて、県保育会主催の宿泊研修が開催され、六十余名の県下の主任保母さんが参加した。

時代の移りかわりに伴う保育ニーズの多様化、子どものおかれている状況にあわせた柔軟な保育の対応、地域ニーズを加味した保育の対応等をどのように行っていくかなど課せられた課題も大であり、そうした中で主任保母の役割もますます増大し期待されている。これらをふまえ、第一日の研修は、主催者挨拶に続き、「保育所のおかれている状況」―主任保母の役割―(全社協児童福祉部長渡辺博氏)「子どもの心に目をむけよう」(子どもの生活研究所奥村幸子氏)「保育今昔」(県保育会副会長池田六郎氏)以上各講師により行なわれた。

夕食の頃には、緊張も幾分柔ら

ぎ、また各部屋では情報交換などなごやかな気分での秋の夜長を語り合っていた。

第二日は、「パネルディスカッション・主任保母に求められるもの」(パネラー・上溝保育園長小川あきの氏ほか)パネラーの先生方のご意見を参考に、現状を出し合いながら保育所のあり方と主任保母の役割について共に考え、今後のとりくみを模索し、情報交換と親睦を一層深め、有意義な一泊研修を終ることが出来た。



調理員研修

日時 一月二十日(木)

場所 神奈川県社会福祉会館

体験発表を核とした形式になって二度目の研修会が、大会議室を満杯にして開催されました。

主催者挨拶の後、ヤクルト本社水野氏の「食生活と便秘」という健康を身近に考えさせる講演、更には、昨今の重要課題「給食センター化問題について」鈴木会長の講演があり、全国状況と今後の進むべき方向についての説得力ある話に参加者は自分の事として聞き入っていました。

午後の体験発表は、応募資格を園長・保育等にも広げ、たくさんレポートが寄せられました。その内九名の発表者が登壇し、工夫に富んだ調理の発表やおいしそうなお話、研究熱心なものや試食のおやつまで出たりで、質問・意見や回答も地についた意欲的なものが多く、皆が子供達の為に一生懸命

奮闘している姿が感動的でした。

熱のこもった発表を終え、東急ホテルでおいしい料理を囲んでの懇親会に参加者は満足顔でした。

以下には、発表されたものの内三点のみを紹介します。



クッキング保育で思うこと

平塚富士見保育園 高橋弘子

給食部に職を頂き「おいしかった、みんな喜んだよ」「なーいあれ、まずかったね」などの批評？に一喜一憂、時に落ちこみ又励ま

され毎日を過ごしております。

「一億総グルメの時代」、おいしいものへの欲求は益々強く、調理の知識面・技術面で一般の方の勉強も進んでおり専門家のはしくれとしては、毎度成績表を晒されているような思いもしますが、それにも増して「ゼーンぶ食べたよ」と嬉しそうに教えにきてくれる園児の目の輝き、給食部の仲間意識、一生の一番大事な時期に園児達の性格作りのお手伝いをさせていただいているんだという使命感に奮い立つ事も多いこの頃です。

さて、当園では保育年間計画の中にクッキング保育を取り入れ、衛生面・調理器具のくりまわしの面・その日の献立とのかねあい等を考慮に入れ実施しております。

七月 五才児 お泊り保育でカレー・サラダ・プリン作り
 九月 五才児 お月見だんご
 十月 五才児 芋煮会の豚汁の野菜切り

十一月 三才児 ホットケーキ

作り 四才児 焼うどん作り 五

才児 お好み焼作り

一月 五才児 どんど焼だんご

二月 五才児 お店やごっこの

ホットケーキ 三才児 いろり卵

三月 五才児 午後のおやつ

クッキー作り

事前の打合せのまずさから園児達が切るのを楽しみにしていた野菜を親切にも給食部で切っていました、下準備を引き受けておきながら忙しくてやってあげられず全部園児さん保育さんにやっていただいたり失敗面もありましたが、だんご、クッキー作りなどは給食部で作るより上手で子供達に威張られたりもしました。

今年度は、フルーツゼリー・白玉あずき・二色卵など新趣向も加わり園児達がどう反応するのか楽しみです。長寿国日本の子供達が元気で長生きする為には幼児期の栄養教育・食生活が大切だと思います。堅苦しくならず現在の生活

からかけ離れず地についた食物知識を身につけさせるためにも無理のないクッキング保育を実施していきたいと思っております。

園の自慢料理ベスト3

箱根町立宮城野保育園 氏家静江

ラーメン 豚肉は塊のままゆで味をつけチャーシューが出来ます。汁は、肉を取り出してからのばし薄味で仕上げます。麺ゆではクラス毎に分け出来上った頃から食べます。ホーレン草・支那竹も入れます。子供はラーメンが大好きです。「またラーメン作ってネ」の言葉に忙しさも忘れてしまいます。

手巻き鮓 一人々のランチ皿に酢めし、マグロ、卵焼、タクワン、きゅうりを棒状に切ったものを盛り、のりを一人一枚あて渡します。この時はホールで会食の為一つのテーブルに年長組を二人位入れ年少三才児に食べ方を教える方法を取りました。それは本当にほほえましい情景でした。食事をしながら

ら「やさしいふれ合い」を学ぶ。今の世の中は何一つ不自由のない生活が許される子供達、せめて保育園の中で食べながらでもやさしい心を養うことができたならば本当に素晴らしい事です。

サンマめし 米は薄味をつけ、

サンマは三枚におろし三つ位に切り酒をふりかけておく。古根を干切りにし、米を炊きふき上った時にサンマを酒の入ったまま入れ込む。古根の半分も入れる。よくむらしてからサンマをほぐしながらかき回す。その時残りの古根を入れる。サンマめしは人それぞれ作り方がありますが私は私の方法でアレンジしてやっております。

「父母の会」の席で実演し試食会をしました。大勢から、生臭さがなくサンマのうま味が出て「おいしいおいしい」との事。家庭でも試していただきました。

自慢料理などとはとても云える献立ではありませんが、私達調理師は「食べる立場」になって「心

をこめて」作る。その時から幼児子供の心のつながりを大切にしていきたいと思います。

子供の食欲はなぜわかないの

南毛利保育所 丹野みき

給食調理をして十二年目、この四月異動。新しい子供達に接し今までの子供達と味覚の違いを驚く程感じました。地域性なのでしゅうか。食品趣向も既製品特にスナック菓子には目を輝かし喜んで食べる子供がとて多く添加物の蓄積はと将来の姿にとても不安を感じます。私達は自然食品で調理しおやつは手作りで安心して与えられるものと常に考えて居ります。

しかし、食べる子供はいやいや仕方なく食すると云った感じが目立ちます。どうしたら表情豊かな顔をして食べられるか思索し子供の口に合やすべく努力しても給食への意欲が見られず食べても長時間要します。偏食か、食品レパトリーの経験不足か把握する必要

があると思えました。特に弱い魚を選び献立「あじのマリネ風」の時に魚肉はマリネに、中骨はとってそれに酒・塩をふり中火でゆつくり「カラツ」と揚げ「魚せんべい」と名付け皿盛りにして好きに取って食べる方法をとりました。

保母さんと共に、「これはカルシウムがいっぱいで食べると大人の歯が出てきた時きらきら輝くきれいな歯が生えてくるんだよ!」、転んでも「ポキッ」と足の骨が折れない等食品がどんな働きをするか話をしました。めずらしさと好奇心なのでしよう。ガリガリ夢中で食べ、マリネも難なく食べる子供達の顔が印象的でした。野菜は美人になるよ、煮物は強い身体になって血が体の中で安全運転してくれてがんばりマンになるよ、海草は〇〇先生のような黒くて長いきれいな髪になるよ等々保母さんが食品一つ一つの働きを絵で教える本を探してくれる等給食に対しての意欲が違ってきました。子供の

様子からものはつきりわかるように食べさせ上手と食品に対する意識

昭和63年度の大会情報等

で集団を通して成功したのだと思

います。食べない嫌いと食品のレ

パートリーの経験不足を偏食と片

付けてしまってお母さん、保育者の

趣向で子供の食品嫌いを作る事がと

ても多いと思います。この頃は給

食が楽しみで食品の話をしなが

らく食べる様になりました。保母

と調理員の立場は違っても、保育

の中での給食の重要性がどれほど

大切なことか自覚し、常に私達も

保育者の一人として子供達の反応

がより大きく育つ様頑張り度いと

思います。私達の園の手作りおや

つは、コスト的に無理がある事か

ら、その場である材料を使用した

り残り材料でその日々に考え作っ

ています。最近好評なのがフルー

ツマーブル。これは、サンドイッ

チの耳、付合せ用のバナナの残り

がとも美味で子供の大好きな一

つです。

1 第22回神奈川県保育事業大会

日時 昭和63年5月21日(土)

場所 神奈川県社会福祉会館

2 第32回全国保育研究大会

日時 昭和63年11月29日(火)~12月1日(水)

場所 東京 こどもの城

3 第29回関東ブロック保育研究大会

日時 昭和63年7月6日(水)~8日(金)

場所 静岡県修善寺町立 総合会館ほか

4 県保育会主催の研修会、行事等

施設長研修、主任保母研修、調

理員研修等が開催される予定。

又、例年のように保母の日前夜

祭も行われる予定。(昭和63年

12月2日(金))

5 昭和63年度全国共通研究テーマ

全国保育協議会が提唱している

昭和63年度の全国共通研究テー

マは「明日をひらく保育を考え

る」で一連の制度の改革が進行

しているなかで、保育所の機能

の体系的・組織的に再構築する

おめでとございませう

▽昭和六十二年中に本会関係者で

大臣表彰以上の栄誉を受けられ

た方々。

勲五等瑞宝章

城ヶ島保育園長 脇坂了教

勲七等宝冠章

茅ヶ崎保育園長 堀部綾子

厚生大臣表彰

五宮羅漢保育園保母 日高京子

あさひ保育園長 河野シゲ

ふくざわ保育園長 石野きよ子

伊勢原市立中央保育園長

三橋三智子

愛川町半原保育園長補佐

伊従ミサ子

久野保育園長 近藤保治

みゆき愛児園保母 本多廣子

▽ご冥福をお祈りいたします

原 包義 氏 (前中原保育園 理事長)

昭和六十二年十月六日逝去



他人の気持や状況を文字を通して

てどう正確且つ平易に伝えられる

か。やはり、感受性を磨き心を育

てる事・観察眼を鍛える事、その辺

がポイントのような気がします。

こんな考えでこれからもやって

行こうと思います。(K生)

「気力」 気が進まない 気まぐ

れ、気心と昔から気をつく言葉が

多くあるが、「気力」これは活力の

こと、私の好きな言葉の一つであ

る。気力と聞くと背筋が伸び、力

に余裕さ之感じいつまでも持ち続

けたいと願っている。(T生)

最近の話題の一つに定員割れ現

象についてがある。これらの現象

は出生児数の低下による影響が大

さいと思われるが、入所希望者の

中に入所手続きが面倒な為保育園

離れをする人もいるとか。手続き

の簡素化も一助ではなからうか。(M生)